

知っていますか？ 日本の文学賞

「文学賞」とは、優れた文学作品に贈られる賞のこと。歴史のある賞から最近話題の賞、実績のある人に贈られる賞から期待の新人に贈られる賞など、様々な賞があります。——誰でも知っている「芥川賞」や「直木賞」ってどんな賞？今回は日本の小説を対象とした「文学賞」について紹介します。（2010年9月現在）

あくたがわりゅうのすけ

●芥川龍之介賞(芥川賞)●

主催：(財)日本文学振興会（文藝春秋社内）

発表：年2回【上半期】7月【下半期】1月

正賞：懐中時計 副賞：賞金 100 万円

対象：新進作家による発表済みの短編純文学（非公募）

特徴：文藝春秋社を創業した菊池寛が、友人である芥川龍之介の功績を記念して 1935 年に創設した。まず5、6作品が最終候補に選ばれ、選考会で受賞作品が決まる。受賞作は『文藝春秋』に掲載される。2005 年中村文則、2007 年諏訪哲史と愛知県出身の作家が立て続けに受賞して話題となった。

Pick Up



【第 138 回受賞作】
『乳と卵』川上未映子/著
（文藝春秋 2008）

【主な受賞作】

- 第 28 回(1952)『或る「小倉日記」伝』松本清張
- 第 34 回(1955)『太陽の季節』石原慎太郎
- ★第 120 回(1998)『日蝕』平野啓一郎
- 第 130 回(2003)『蹴りたい背中』綿矢りさ

な お き さ ん し ゅ う ご

●直木三十五賞(直木賞)●

主催：(財)日本文学振興会（文藝春秋社内）

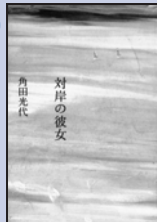
発表：年2回【上半期】7月【下半期】1月

正賞：懐中時計 副賞：賞金 100 万円

対象：無名・新進・中堅作家による発表済みの大衆小説（非公募）

特徴：芥川賞と同様に菊池寛が友人の直木三十五の功績を記念して 1935 年に創設した。受賞作は『オール讀物』に掲載される。直木三十五は昭和初期に活躍した大衆作家。31歳の頃に筆名を「直木三十一」にしてから、年を重ねるごとに「三十二、三十三…」と変えていき、最終的に「三十五」に落ち着いた。

Pick Up



【第 132 回受賞作】
『対岸の彼女』角田光代/著
（文藝春秋 2004）

【主な受賞作】

- 第 39 回(1958)『花のれん』山崎豊子
- 第 43 回(1960)『錯乱』池波正太郎
- 第 69 回(1973)『暗殺の年輪』藤沢周平
- ★第 105 回(1991)『夏姫春秋』宮城谷昌光

の ま 野間文芸賞

主催：(財)野間文化財団 発表：11 月上旬

正賞：賞牌 副賞：賞金 300 万円

対象：新聞、雑誌、単行本などに発表された小説、評論、ノンフィクションなど（非公募）

特徴：講談社の初代社長・野間清治の遺志により 1941 年に創設された。「野間」の名を冠した賞に、野間文芸翻訳賞、野間文芸新人賞、野間児童文芸賞などがある。

【主な受賞作】

- 第 7 回(1954)『山の音』川端康成
- 第 42 回(1989)『孔子』井上靖

- 第 19 回(1966)『黒い雨』井伏鱒二
- 第 58 回(2005)『半島を出よ』村上龍



【第 61 回受賞作】
『宿屋めぐり』町田康/著
(講談社 2008)

み し ま ゆ き お やまもとしゅうごろう 三島由紀夫賞・山本周五郎賞

主催：(財)新潮文芸振興会 発表：5 月下旬

正賞：記念品 副賞：賞金 100 万円

対象：【三島賞】文学の前途を拓く新鋭の作品（公募）

【山本賞】すぐれて物語性を有する新しい文芸作品（非公募）

特徴：新潮社と縁が深かった三島由紀夫と山本周五郎を記念して 1987 年に創設された。三島賞は小説、評論、詩歌、戯曲を対象とし、山本賞は小説のみを対象としている。

【三島賞・主な受賞作】

- 第 3 回(1990)『世紀末鯨鯢記』久間十義
- 第 16 回(2003)『阿修羅ガール』舞城王太郎

【山本賞・主な受賞作】

- 第 6 回(1993)『火車』宮部みゆき
- ★第 14 回(2001)『白い薔薇の淵まで』中山可穂



●山本賞●



【第 20 回受賞作】
『夜は短し歩けよ乙女』
森見登美彦/著
(角川書店 2006)

たにざきじゅんいちろう 谷崎潤一郎賞

主催：中央公論新社 発表：『中央公論』11 月号誌上

正賞：時計 副賞：賞金 100 万円

対象：小説および戯曲（非公募）

特徴：中央公論社が創業 80 年を記念して 1965 年に創設した。中堅作家の代表作ともいえる作品に贈られるため、その時代の読むべき文学作品がそろっていると評価の高い文学賞。

【主な受賞作】

- 第 2 回(1966)『沈黙』遠藤周作
- 第 11 回(1975)『一休』水上勉
- 第 27 回(1991)『シャンハイムーン』井上ひさし
- 第 37 回(2001)『センセイの鞆』川上弘美



【第 42 回受賞作】
『ミナタの行進』小川洋子/
著 (中央公論社 2006)

作家の名前を冠した文学賞には、ここで紹介した賞のほかに「菊池寛賞」「司馬遼太郎賞」「柴田錬三郎賞」「川端康成文学賞」「泉鏡花文学賞」などがあります。

● 吉川英治文学賞 ●

主催：(財)吉川英治国民文化振興会 発表：3月中旬

正賞：賞牌 副賞：賞金 300 万円

対象：発表済みの小説、戯曲、評論、随筆など（非公募）

特徴：吉川英治の功績を記念して 1967 年に創設された吉川英治 3 賞のひとつ。他に吉川英治文化賞、吉川英治文学新人賞がある。第 1 回受賞者は松本清張。第 4 回は柴田錬三郎、第 6 回は司馬遼太郎と錚々たる作家が受賞している。

【主な受賞作】

- 第 2 回(1968)『徳川家康』山岡荘八
- 第 17 回(1983)『序の舞』宮尾登美子

- ★ 第 9 回(1975)『落日燃ゆ』城山三郎
- 第 42 回(2008)『中原の虹』浅田次郎

Pick Up



【第 38 回受賞作】
『楊家将』北方謙三/著
(PHP 研究所 2003)

● えどがわらんぼ 江戸川乱歩賞 ●

主催：(社)日本推理作家協会 発表：『小説現代』7月号誌上

正賞：江戸川乱歩像 副賞：賞金 1000 万円

対象：広い意味での推理小説で未発表のもの（公募）

特徴：江戸川乱歩が自身の還暦記念に基金を提供して創設した賞。新進作家の発掘と育成を目的としている。受賞作は講談社から出版される。他に推理小説を対象とした賞に、日本推理作家協会賞や「このミステリーがすごい！」大賞などがある。

【主な受賞作】

- 第 15 回(1969)『高層の死角』森村誠一
- 第 24 回(1978)『ぼくらの時代』栗本薫
- 第 39 回(1993)『顔に降りかかる雨』桐野夏生
- ★ 第 50 回(2004)『カタコンベ』神山裕右

Pick Up



【第 31 回受賞作】
『放課後』東野圭吾/著
(講談社 1985)

● 日本ファンタジーノベル大賞 ●

主催：読売新聞東京本社、清水建設（後援：新潮社）

発表：8月上旬 大賞：賞金 500 万円 優秀賞：賞金 100 万円

対象：未発表の創作ファンタジー小説（公募）

特徴：プロ・アマ問わず応募できる。受賞作は新潮社から出版される。毎回レベルが高く、独創的で自由な発想にあふれる作品が受賞している。この賞からデビューした人気作家に、森見登美彦（第 15 回大賞）や畠中恵（第 13 回優秀賞）らがいる。

【主な受賞作】

- ★ 第 1 回(1989)『後宮小説』酒見賢一
- 第 3 回(1991)『バルタザールの遍歴』佐藤亜紀
- 第 10 回(1998)『オルガニスト』山之口洋
- ★ 第 13 回(2001)『太陽と死者の記録』粕谷知世

Pick Up



【第 18 回受賞作】
『僕僕先生』仁木英之/著
(新潮社 2006)

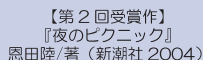
?

Q.一番賞金の高い賞は？

A.「このミステリーがすごい！」大賞(1200万円)やポプラ社小説大賞(2000万円)などが抜きん出て高額ようです。賞金が高い文学賞はやはり人気があり、応募総数が多いそうです。

本屋大賞

●第6回(2009)『告白』湊かなえ



 児童文学賞

日本児童文学者協会賞（主催：（社）日本児童文学者協会）

1961 年に創設された歴史ある賞。前年一年間の児童文学関係著作が対象（非公募）。

小川未明文学賞（主催：小川未明文学賞委員会、上越市）

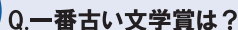
児童文学作家の小川末明を記念して 1992 年に創設された賞。小学校 3 ～6 年生を
読者対象とした未発表の児童文学作品が対象（公募）。

新美南吉童話賞（主催：半田市教育委員会、新美南吉記念館）

愛知・半田市出身の童話作家・新美南吉の功績をたたえ 1989 年に創設された。未発表の創作童話が対象(公纂)。ちなみに新美南吉は 2013 年で生誕 100 周年を迎える。



文学賞のことをもっと知りたい方は、『**最新文学賞事典**』(R910.26)を見ると、日本の文学賞について詳しく調べることができます。また『**文藝年鑑**』(R910.59)には、その年の文学賞とその受賞者一覧が掲載されています。『**週刊読書人**』(S019)には、毎年12月下旬の号に、その年の文学賞受賞者の特集が掲載されています。※()内は当館の分類番号です。



A. 現存する日本の文学賞
 の中では、1935年に創設さ
 れた「芥川賞」「直木賞」が最
 も古い賞のようです。文学賞
 の起源をたどると、明治時代
 に新聞社や出版社が始めた
 「懸賞小説」がその始まりで、
 その後様々な文学賞が誕生
 して現在のようになりました。